

21 T1a、T1bの腎がん患者に対する 腹腔鏡下手術の実施率

指標の解説

- 臨床病期T1及びT2の腎がんに対する腹腔鏡下根治的腎摘除術は、近年標準術式の一つになっている。
- 従来の開腹手術と比較した場合、手術成績（手術時間、出血量、合併症）は変わらないが患者負担（食事や歩行開始までの期間、入院期間、鎮痛剤の使用量）は軽く、当院で低侵襲治療を行っていることを示す指標となる。

分子：腎悪性腫瘍（初発）のステージT1aまたはT1bで、

腎（尿管）悪性腫瘍手術を施行した患者数

分母：腹腔鏡下手術を施行した件数

